

# まるりん通信



第173号 平成26年11月発行

公益財団法人 屋久島環境文化財団  
TEL 0997-42-2900 FAX 0997-49-1018



## 屋久島学ソサエティ 第2回大会



●主催 屋久島学ソサエティ●

2014年12月13日(土)・14日(日) 屋久島町総合センター(安房)

### 13(土) テーマセッション1

#### 「山のトイレを科学する」

屋久島の山岳トイレの現状と他地域の取り組みを通して、屋久島にふさわしい山岳トイレのあり方を考えます。

### 13(土), 14(日)

#### ポスターセッション

屋久島学ソサエティ会員の研究者や住民が、様々な分野の成果をポスターにより発表します。

### 14日(日) テーマセッション2

#### 「屋久杉のすべて」

多方面のヤクスギ研究から明らかにされるヤクスギの特性・不思議。知っているようでよく解らないギモンに答えます。

### 12(金), 15(月)

#### エクスカーショ

西部地域やヤクスギランドなどでのフィールドワークで理解を深めます。

### 第5回屋久島研究講座

## 屋久島山岳研究50年の成果

屋久島登山の歴史背景から見た屋久島の地図

講師：太田五雄氏

日時：平成26年12月6日(土)  
19:00~20:30

場所：屋久島環境文化村センター(宮之浦)  
主催：公益財団法人屋久島環境文化財団

### 屋久島ふるさとセミナー

## 「冒険しよう」

カメラマン体験・アウトドアクッキングなどを予定しています。

開催日：11月22日(土)~23日(日)

対象：小学4年生~中学3年生まで

参加費：500円

定員：20名(応募が定員を超えた場合は抽選)

募集締切：11月11日(火)

※詳しくは 研修センター TEL0997-46-2900(小西)まで

またはこちらのQRコードをご参照ください。



### 村センター交流ホール展示

## 『レクリエーションの森保護管理協議会

### 小中学生作文展』

屋久島レクリエーションの森保護管理協議会では、白谷雲水峡やヤクスギランドの自然休養林及び大川の滝・千尋の滝・田代ヶ浜の風景林がレクリエーションの森として身近に親しめ、森林の大切さを再確認していただき、併せてレクリエーションの森の普及啓発を行うため、町内の小中学生より作文を募集しました。感性豊かな子ども達の作文をお楽しみください。

期間：11月5日(水)~11月18日(火)

主催：屋久島レクリエーションの森保護管理協議会

場所：屋久島環境文化村センター(宮之浦)交流ホール

入場：無料

休館日 村センター 11/18(火) 12/15(火) 12/28(日)~1/1(木)

研修センター 11/24(月) 12/1(月) 12/8(月) 12/15(月) 12/28(日)~1/4(日)

～インストラクター便り～ 『紅葉こうようのしくみ』 インストラクター 山口翔太

秋も深まり森の木々が色づく季節となりました。屋久島では一年中緑色の葉をつけている常緑樹が多いため、山全体を真っ赤に染めるような紅葉は見る事が出来ません。しかし、緑の中に赤が点々と混じる屋久島独特の紅葉を見る事が出来ます。

秋の山の楽しみと言えば紅葉ですが、みなさんは葉っぱが赤や黄色に色づくしくみを知っていますか？葉はもともと緑色と黄色の色素を持っています。そのうち、緑色の色素が圧倒的に多いので緑色に見えます。気温が低くなると緑色の色素が分解され、次第に黄色くなり始めます。

一方、同じく気温が低くなると葉を落とす準備を始めるため、葉と枝の間に離層という層が形成されていきます。この離層ができると葉で光合成によって作られた糖分の移動が妨げられ、葉に蓄積されていきます。種類によってはこの糖分から赤色の色素が作られます。これには日光が必要であり、日当たりの良い葉ほどきれいに赤く色づきます。よく晴れた日が続いた方がきれいに紅葉すると言われているのはこのためです。

紅葉はその年の気候ごとに、そして時間ごとに変化するので同じ場所でも再び訪れると全く違った景色を見ることが出来るかも知れません。ぜひ秋の山や森に足を運んでみて下さい。

<参考文献>

林将之 (2008) 紅葉ハンドブック. 文一東京出版



活動報告

～心に撮す秋の屋久島～

11月1日(土)・2日(日)に『屋久島感動めぐり～心に撮す秋の屋久島～』を開催しました。

1日目は「写真」をテーマに迫力満点の滝めぐり、西部林道の自然観察を行い、ちょっとしたカメラの操作でこれまでとは一味違う写真を撮ることができました。

2日目は「スローライフ・スローフード」をテーマに平内区の里めぐりと郷土料理体験を行い、当たり前すぎて見落としてしまいがちな魅力を再発見することができ、地元に対する思いが強くなったようです。

両日とも参加者のみなさん and 和気藹々と交流を深めることができたことと喜んでいらっしゃいました。



交流ホール展示 『南西諸島の鳥200展』

NPO 法人郡島 鳥類研究会による展示が行われました。



連載【屋久島を想う】No.95

『I LOVE 地元』

財団職員 文化村センター勤務  
真辺 侑也



私は5年前に屋久島高校を卒業し、屋久島で就職したため、一度も屋久島を出て生活したことがありません。以前は、都会への憧れや島を離れたいという気持ちが強かったのですが、ある団体で活動し始め、地元を離れたいと思うことがなくなりました。それは、私の地元である一湊の行事全般を運営する「はめつけ隊」という団体です。

各集落にも、地元行事の運営や地域活性化のための組織があると思います。一湊はめつけ隊は、年齢を問わず約50人の隊員が、「楽しく飲めれば良か」という精神で活動しています。集落のために活動しては、楽しい飲み会をという繰り返して、活動をする際は、集落のことを考え、飲み会ではそれぞれの夢を語りあっています。

この団体で活動する中で、私は、いつの間にか都会への憧れは薄れていき、それどころか地元にもっと貢献したい、集落の活性化を図りたいと思うようになりました。

現在、集落は少子高齢化が進み、人口は減少していますが、これからできる限りのことをしていきたいと思っています。